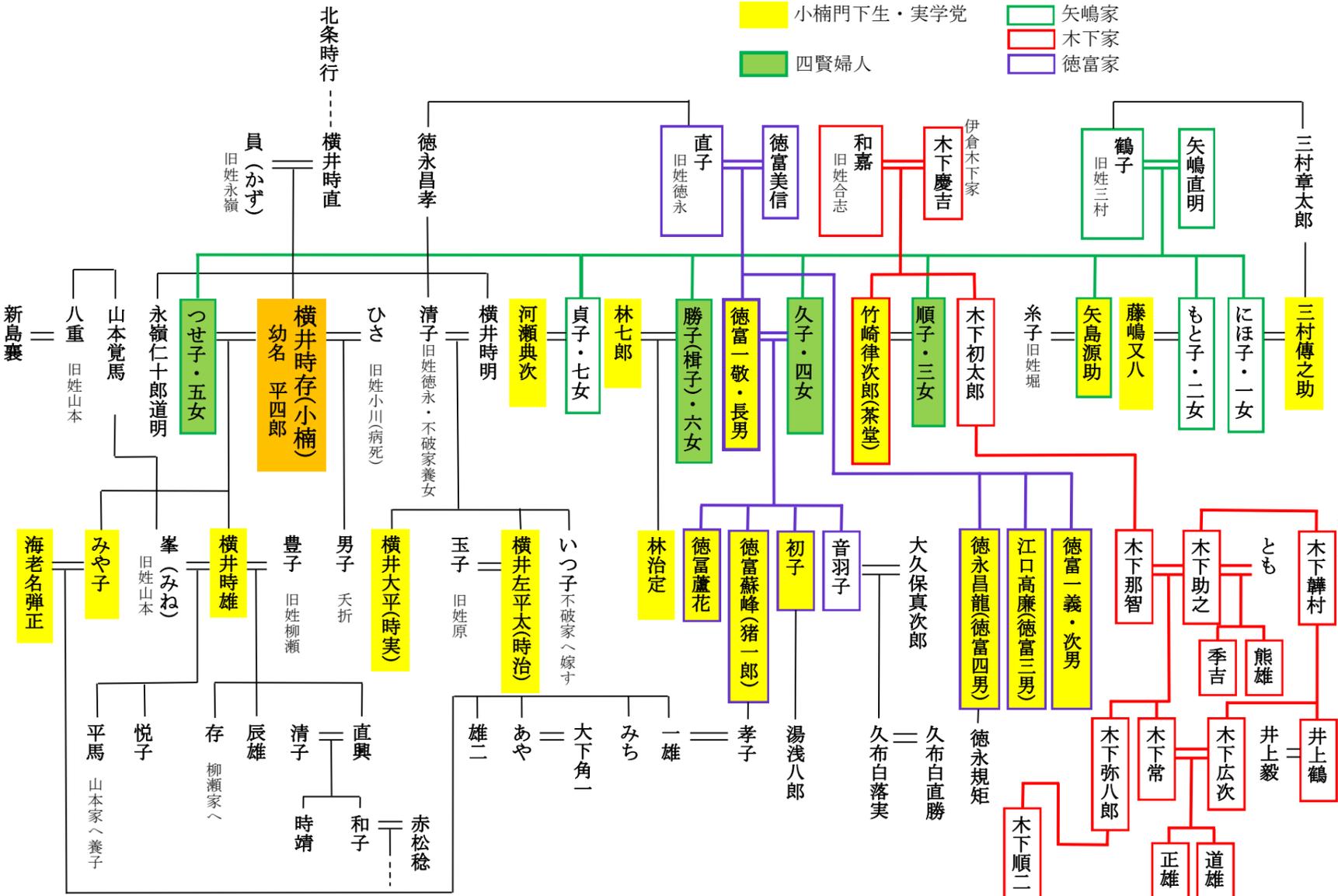


横井小楠関係家系図 矢嶋家・徳富家・木下家

凡例

小楠門下生・実学党
四賢婦人

矢嶋家
木下家
徳富家

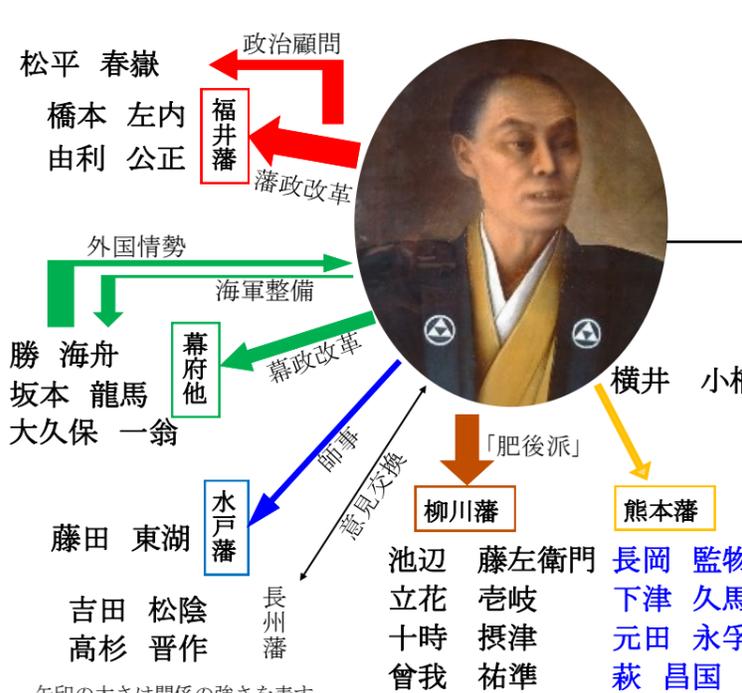


横井小楠略年表

(年齢は数え年です)

西暦	年号	年齢	出来事	日本の出来事
1809	文化6	1	8月肥後藩士横井大平時直の次男として内坪井に生まれる	将軍11代家斉 間宮林蔵、間宮海峡発見
1816	文化13	8	この頃時習館に入学	
1822	文政5	14	水道町(現鶴屋パーキング付近) に転居	(1821)伊能忠敬日本地図完成
1833	天保4	25	6月時習館居寮生となる	天保の大飢饉
1836	天保7	28	4月講堂世話役を勤める 10月藩主斉護より紋付上下下賜	
1837	天保8	29	2月時習館居寮長となる 下津休馬 とともに居寮新制度建議	大塩平八郎の乱 13代将軍家慶
1839	天保10	31	3月藩命により江戸遊学 4月林大学頭に入門 藤田東湖・川路聖謨 らと交流	蛮社の獄
1840	天保11	32	2月酒失事件。帰熊を命じられる 12月帰熊。逼塞を命ぜられる	清・英国のアヘン戦争
1841	天保12	33	長岡監物、下津久馬、元田永孚、萩昌国 らと研究会を開く。「 実学党 」の起こりとなる 『時務策』を起草して藩を批判	天保の改革
1845	弘化2	37	この頃私塾開く。門人 徳富一敬・矢島源助・竹崎律次郎 ら	
1846	弘化3	38	水道町より相撲町に転居。	
1847	弘化4	39	手狭になった家塾を新築。「小楠堂」と命名 門人 嘉悦氏房・長野藩平・河瀬典次・安場保和 ら20人	
1849	嘉永2	41	全国遊歴中の福井藩士 三寺三作 小楠堂をたずねる	(1848)フランス革命
1851	嘉永4	43	2月諸国遊歴 10月帰熊	
1852	嘉永5	44	3月福井藩の求めで『 学校問答書 』贈る	
1853	嘉永6	45	1月『 文武一途の書 』を福井藩に贈る 10月『 夷虜応接大意 』著す 吉田松陰 、小楠堂を訪ねる	ペリー浦賀来航 ロシア使節プチャーチン長崎に来航
1854	安政1	46	9月兄時明死去。家督を継ぐ	日米和親条約締結
1855	安政2	47	5月沼山津に転居「四時軒」と命名 この頃から開国論唱え、長岡監物と袂を分かつ	
1856	安政3	48	矢島源助の妹津勢子(つせ子)と再婚	
1858	安政5	50	4月福井藩主 松平春嶽 の招きで福井へ 12月弟永嶺仁十郎死去のため帰熊	井伊直弼大老就任・安政の大獄 14代将軍家茂
1859	安政6	51	5月福井へ帰任、殖産・貿易に努める 12月母・員(かず)死去のため帰熊	橋本左内・吉田松陰 ら死罪
1860	万延1	52	3月福井へ帰任『 国是三論 』著す	桜田門外の変・和宮降嫁
1861	文久1	53	4月松平春嶽の招きで江戸へ 勝海舟・大久保一翁 らと交流	
1862	文久2	54	政事総裁職(大老級)・松平春嶽のプレーンに 『 国是七条 』著し、 徳川慶喜 と対面 12月士道忘却事件	徳川慶喜、将軍後見職になる 参勤交代の緩和
1863	文久3	55	8月沼山津に帰る 12月士道忘却事件の咎で士籍剥奪	福井藩上京。参与会議(諸侯会議) 七卿都落ち
1864	元治1	56	『海軍問答書』起草 4月 坂本龍馬 沼山津に來訪 井上毅 、小楠との談話をまとめて『 沼山対話 』著す	禁門の変、第一次長州征伐
1865	慶応1	57	元田永孚 、小楠との談話をまとめ『 沼山閑話 』著す	
1866	慶応2	58	甥の横井佐平太・大平、米国へ留学『 送別の語 』	薩長同盟、15代将軍慶喜
1867	慶応3	59	9月『 国是十二条 』著す 11月松平春嶽に大政奉還後の政体について建言 12月朝廷より参与の招命あるも、熊本藩が固辞	11月坂本龍馬暗殺 12月大政奉還、王政復古の大号令 明治維新
1868	明治1	60	4月朝廷より再度の招命。徴士参与となる	3月五箇条の誓文 9月明治改元
1869	明治2	61	1月5日朝廷より帰宅途中暗殺される	版籍奉還、戊辰戦争終結

小楠の交友と実学党の系譜



門弟

